

地盤情報で新ビジネスモデル構築

ICT(情報通信技術)

を活用した新しい地盤情報サービスモデルの構築をめざす高知市域地盤災害情報協議会は、サービスの中核的ツールとなる「リアルタイム地盤災害予測システム」の有償サービスを2011年度から提供したい考えだ。10年度中に任意の場所での「地震災害予測」と「土砂災害予測」を可能にする実証用アプリケーションを構築し、システムを概成させる。近い将来の携帯端末やカーナビへの情報サービス提供を視野に入れ、ユーザーのニーズとのマッチングについ

リアルタイム地盤災害予測システム

高知市域地盤災害情報協議会

ても検証する。

「リアルタイム地盤災害予測システム」の構築は、総務省が世界最先端のICTサービスの開発・実証を目的として創設した「ユビキタス特区」

リスクの高い個所をデータベース化④各種の災害予測情報サービスをインターネットを経由して提供(ASP・SaaS・クラウドコンピューティング)ー。想定される

11年度からサービス提供へ

事業にも採択されている。

地震や豪雨時の住宅被害や土砂災害などをシミュレーションしたり、地質データをリアルタイムで算出、情報提供できるようにする。

①ボーリング柱状図をデジタル化した地質データベースを作成②データベースを基にした高知市の三次元地質モデルを作成③地震や豪雨などによる地質(土砂)災害の発生

例え、地震災害予測は、構築した三次元地質モデルから約2500メッシュのサイト増幅

特性を求め、建築物に大きな影響を与える地表震度などのシミュレーションを行う。従来の地表震度(加速度値)の推定結果は、高知市の実際の地質構造を正確に反映していない可能性があることから、推定精度とリスク計算の向上につながる。みている。

と、避難勧告や避難場所・避難路についての情報提供を迅速・的確にできるようにする。

協議会は、こうしたアプリケーションの構築と併行して、10年度は有償サービス提供の実施主体についても具体化させたいと考えている。インターネットによるサービスの提供の課題や、課金システムの構築についても検討・検証を進めていく。

高知市域地盤災害情報協議会は、相愛(高知市)、地研(同)、全国地質調査業協会連合会(全地連)、NPO地質情報整備・活用機構(GUPI)、NPO ASSPIS a a S普及促進協議会(ASPIC)ーの2社3団体で構成している。